



秋田県健康環境センター 業務概要

Akita Prefectural Research Center
for Public Health & Environment

秋田県健康環境センター

◆ はじめに・・・健康環境センターについて

秋田県健康環境センターは、平成18年度に旧衛生科学研究所と旧環境センターが統合して設立され、両機関から地域保健対策の推進支援と環境保全という役割を継承し、現在は「健康被害の防止」と「環境の保全」を基本として業務を行っています。

「健康被害の防止」については、新型インフルエンザウイルス等の新興感染症、ノロウイルス、病原性大腸菌などによる感染症や食中毒への対応や、食品中の残留農薬などによる食品の安全・安心の確保への対応がますます必要とされています。

また、「環境の保全」については、本県の環境は比較的良好な状態が保たれているものの、依然として八郎湖の富栄養化や田沢湖のpH改善、PM2.5等による広域的な大気汚染、あるいは、破産した産業廃棄物最終処分場の汚染された地下水の管理への対応などの課題があります。

さらに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う原子力発電所での事故発生後は体制の強化を図りながら、食品や水道水の放射能検査、大気中の空間放射線量モニタリングなどの測定を継続しています。

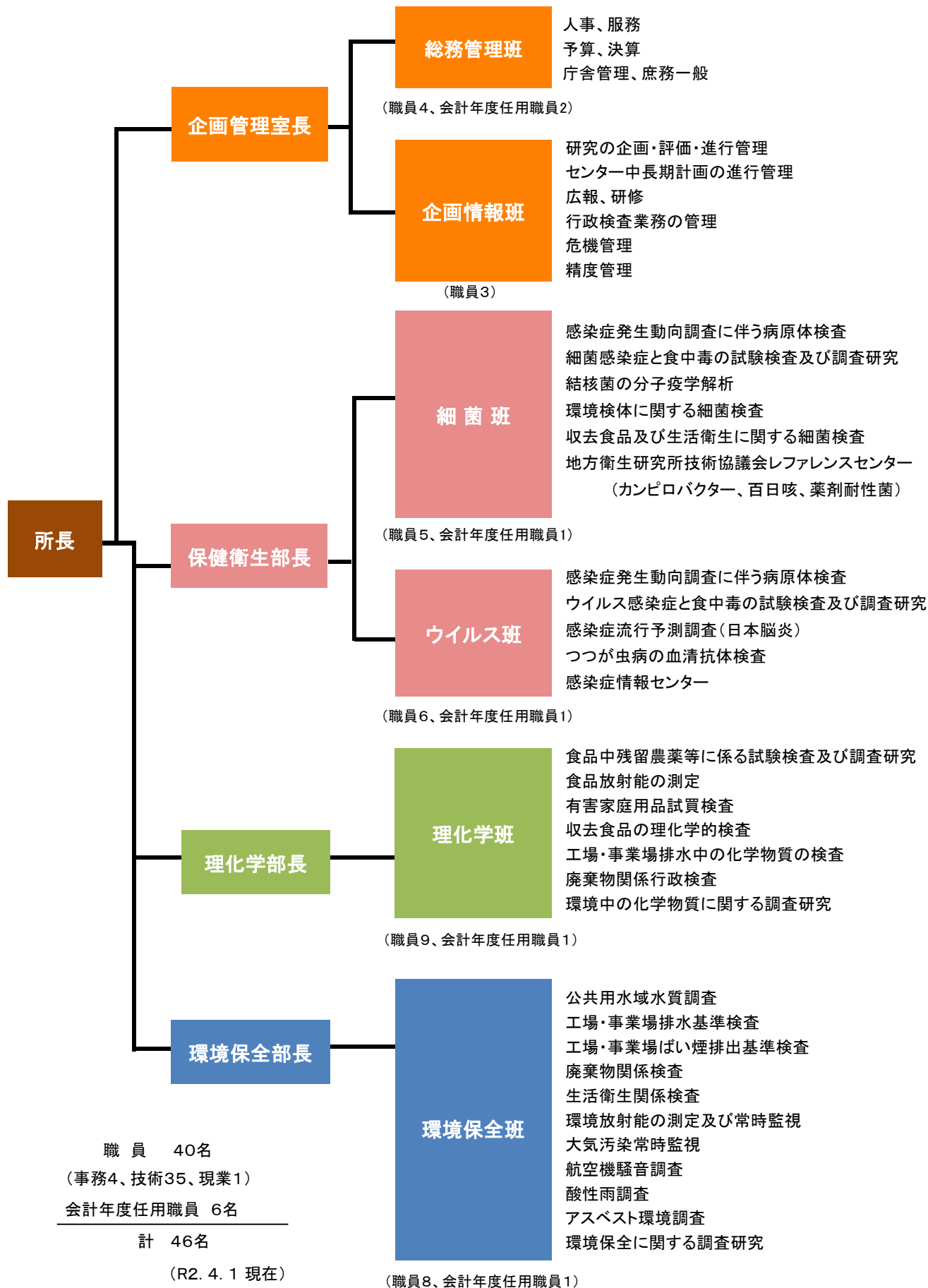
保健衛生・環境行政を科学的・技術的に支援するという役割を担っている当センターは、このような本県の現状を見据え、県民の健康と本県の環境を守るために必要とされる様々な試験検査及び調査研究に取り組んでいます。

また、県内の感染症の発生状況に係る情報、大気汚染常時監視情報、放射能検査結果等について、随時、ウェブサイトなどで公開し、分かりやすく県民に発信しています。

◆ 沿革

年. 月	事 項	
	(旧衛生科学研究所)	(旧環境センター)
明治 35. 7	・衛生試験所を秋田市牛島町に設立。	
昭和 39. 4	・衛生科学研究所に改称。	
39. 6	・庁舎を秋田市古川堀反町(現千秋明德町)に新築移転。	
45. 7		・公害技術センターを秋田市茨島の工業試験場内に設立。
48. 7		・庁舎を秋田市八橋に新築移転。
56. 4		・環境技術センターに改称。
61. 8	・庁舎を秋田市千秋久保田町に新築移転。	
平成 12. 4		・環境センターに改称。
		・秋田市山王の県庁第二庁舎に総務班及び監視・情報班を置く。
14. 3		・八橋分室敷地内にダイオキシン類分析棟を新築。
18. 4	・衛生科学研究所と環境センターを組織統合し、健康環境センターとして発足。 ・千秋庁舎に企画管理室及び保健衛生部を八橋庁舎に環境部を設置。	
21. 4	・八橋庁舎の環境部を千秋庁舎に移転し、庁舎を統合。 ・保健衛生部の理化学部門と環境部の化学物質部門を統合した理化学班を環境・理化学部内に設置。組織を企画管理室、保健衛生部及び環境・理化学部とする。	
22. 4	・保健所の試験検査課を統合。 ・保健衛生部の微生物班を細菌班とウイルス班に再編し、健康科学班を健康科学・管理班に名称変更。 ・環境・理化学部を理化学部と環境保全部に再編。理化学部には、理化学班を再編した食品理化学班と環境理化学班を設置。環境保全部には環境調査班を名称変更した環境保全班を設置。	
24. 4	・企画管理室の総務・企画班を再編し、総務管理班と企画情報班を設置。保健衛生部の健康科学・管理班を廃止。理化学部の食品理化学班と環境理化学班を統合し、理化学班を設置。	

◆ 組織と業務



◆ 秋田県健康環境センター中長期計画について

第3期ふるさと秋田元気創造プラン

- 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略
 - ・ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備
- 基本政策
 - ・ 環境保全対策の推進
 - ・ 安全・安心な生活環境の確保

センターの役割

- 感染症法、地域保健法に基づく病原体の迅速な検査及び疫学調査の実施
- 地方感染症情報センター業務
- 食品衛生法に基づく食品衛生検査の実施
- 環境の保全に関する試験検査及び調査研究並びに環境の状況の監視
- 緊急時の対応

中 長 期 計 画 (H31.3見直し)

(H26年度～R3年度)

基本方針と推進分野

健康被害の防止

病原体の迅速な検査及び疫学調査、食品衛生検査の機能強化、未規制化学物質等の対策に取り組む。

環境の保全

大気・水質等の監視、三大湖沼の水質改善、能代産業廃棄物処理センターの汚水の適正処理等に取り組む。

【推進に当たっての4つの視点】

1. 行政課題に直結した調査研究及び成果の還元
2. 試験検査の確実な実施及び検査技術・精度の向上
3. 情報の収集・解析・発信及び能力の向上
4. 危機発生時における迅速な対応

視点1：調査研究のテーマ

- 病原体等の検査技術の開発や新検査方法の強化
- 食品中の残留農薬等の検査技術の構築
- 未規制化学物質等に係る調査研究
- 田沢湖の水質変化対策、八郎湖の富栄養化対策
- 新規制物質1,4-ジオキサンの適正処理

視点2：試験検査業務

- 感染症に係る検査
- 食品衛生に係る検査
- 環境放射能調査
- 水質汚濁対策調査
- 廃棄物対策調査 等

視点3：情報収集・解析・発信業務

- 感染症発生情報
- 空間放射線量モニタリング情報
- 大気汚染常時監視(テレメータシステム)

視点4：危機発生時の対応

- 新型インフルエンザ等新興感染症の発生
- 原子力関連施設の事故や核実験による放射能の拡散
- 大気汚染物質の拡散
- 工場や廃棄物処理施設等からの汚水の流出 等

研究成果

検査結果

他機関との連携

技術支援

行政施策等への反映

秋 田 県 民

◆ 主要な試験検査業務

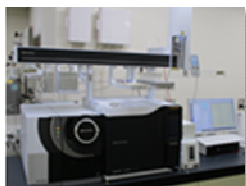
○**感染症対策**: 感染症や食中毒の原因となる細菌(病原性大腸菌、結核菌、サルモネラ属菌等)やウイルス(インフルエンザウイルス、ノロウイルス等)についての検査や、つつが虫病血清抗体検査などを行い、発生時の原因究明や衛生指導に活用しています。



○**食品衛生対策**: 食品衛生法に基づき、県内で流通する食品の細菌検査、成分規格、添加物、残留農薬等の検査を行っています。



牛乳の検査



残留農薬の検査

○**環境放射能調査**: 流通食品、県産農産物、廃棄物、最終処分場放流水等の放射性物質の測定を行っています。



ガンマ線スペクトロメーター

○**水質汚濁対策調査**: 十和田湖、八郎湖、田沢湖等の水質を定期的に調査し、水質の状況を監視しています。

また、工場等の排水を検査し、排水基準の適合状況を調査しています。



田沢湖調査

○**廃棄物対策調査**: 産業廃棄物処分場、能代産業廃棄物処理センター環境保全対策等に係る放流水や地下水の調査を実施しています。



ガスクロマトグラフ質量分析計(GC/MS)

◆ 危機発生時の対応

新型インフルエンザ等新興感染症の発生

新型インフルエンザ等が発生した場合、病原体の遺伝子検査等を実施します。

放射性物質に係る事故等の発生

原子力関連施設での事故の発生や近隣国で核実験等が行われた場合に、大気中の空間放射線量の監視や水道水、降下物、流通食品、県産農産物等の放射能の測定を強化します。

大気汚染物質の拡散

PM2.5等の大気汚染物質濃度が基準値を超える恐れがある場合、監視を強化します。

工場等からの汚水流出

工場等や事業場で汚水流出等の事故が発生した場合に、周辺環境調査を実施します。

◆ 主要な調査研究

【 感染症対策 】

● 病原体ゲノミクスを基盤とした病原体検索システムの利活用に係る研究

(R1～R3年度 国立感染症研究所等と共同)

病原体遺伝子情報の国内ネットワークを活用した、検査体制の高度化および公衆衛生対策に資する包括的なサーベイランス体制の構築・整備に協力しています。



サルモネラ属菌

● ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン効果の評価に関する研究

(H30～R2 国立感染症研究所と共同)

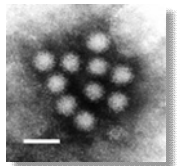
将来のおたふくかぜワクチン定期接種化に備え、全国的サーベイランスシステムの構築に協力しています。

【 食の安全・安心 】

● ノロウイルスによる健康被害実態及び食品寄与率の推計に関する研究

(R1～R2年度 国立医薬品食品衛生研究所と共同)

ノロウイルスによる食中毒に係るリスクを低減するために、汚染ルートの解明に役立つ検査法を開発するとともに、下水や二枚貝におけるウイルスのモニタリングを行っています。



ノロウイルス

● 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究

(H30～R2年度 国立感染症研究所等と共同)

腸管出血性大腸菌O157の迅速な分子疫学解析手法を導入するとともに、北海道・東北・新潟地区において情報の共有化を図り、集団感染の早期探知及び健康被害の拡大防止に役立てます。

● 新規食中毒原因菌エシェリキア・アルバーティーの迅速検出法の検討と感染源の解明

(H30～R2年度 県単独事業)

食中毒の新たな原因菌として注目されているエシェリキア・アルバーティーの迅速な遺伝子検出法の開発と食品等における汚染実態について調査を行っています。

【 湖沼等の水質保全対策 】

● 田沢湖の水質変化機構についての調査研究

田沢湖等の水質変化の機構解明に関する調査研究を行っています。

● 八郎湖の富栄養化対策のための調査研究

八郎湖流域の富栄養化の機構解明に関する調査研究を行っています。



【 廃水処理技術 】

● 産業廃棄物処分場の浸出水の生物処理技術に関する研究

(H30～R3年度 秋田県立大学との共同研究)

有害物質「1,4-ジオキサン」が含まれる産業廃棄物最終処分場廃水の処理について、1,4-ジオキサン分解菌の特徴を把握し、廃水処理施設での安定的な処理に向けた研究を進めています。



1,4-ジオキサン分解菌

◆ 情報収集・解析・発信業務

● 感染症情報センター

感染症の発生動向の集計・解析・情報発信を行っています。



● モニタリングポスト

核実験や原子力災害に由来する県内の空間放射線量の変動を把握・監視しています。

空間放射線量
モニタリングポスト



● 大気測定局

テレメータシステムにより県内のPM2.5など、大気汚染物質の常時監視を行っています。



大気測定局

◆ 令和2年度調査研究課題等一覧

(令和2年4月1日現在)

No.	研 究 課 題 名 等	事業 年度	財源	共同研究の相手方 又は調査研究依頼者	担当班
1	カンピロバクターレファレンスセンター事業	H1～	国	全国地方衛生研究所 微生物技術協議会の事業	細菌 班
2	百日咳レファレンスセンター事業	H15～			
3	薬剤耐性菌レファレンスセンター事業	H27～			
4	食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化 システムの構築のための研究	H30～R2	厚労科研費	国立感染症研究所、北海道・東北・新潟ブロック地方衛生研究所	
5	病原体ゲノミクスを基盤とした病原体検索システムの 利活用に係る研究	R1～R3	日医研開機構 研究費	国立感染症研究所との共同	
6	下痢原性細菌におけるサーベイランス手法及び 病原性評価法の開発に向けた研究	H30～R2	日医研開機構 研究費	国立感染症研究所との共同	
7	オミックス情報に基づく結核感染制御技術の 開発研究	H30～R2	日医研開機構 研究費	結核予防会結核研究所との共同	
8	食品中の食中毒細菌および制御法の確立のための 研究	H30～R2	厚労科研費	国立医薬品食品衛生研究所 との共同	
9	新規食中毒原因菌エシェリキア・アルバーティーの 迅速検出法の検討と感染源の解明	H30～R2	県政策	(センター「政策予算 研究・活動費」の「研究」として)	
10	ノロウイルスによる健康被害実態及び食品寄与率の推 計に関する研究	R1～R2	内閣府食安委 技術研究費	国立医薬品食品衛生研究所 との共同	ウイル ス班
11	ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン 効果の評価に関する研究	H30～R2	日医研開機構 研究費	国立感染症研究所との共同	
12	わが国の現行ロタウイルスワクチンの評価と新しい ウイルス性胃腸炎ワクチンの開発に向けた臨床と 基礎研究	R1～R2	予防接種 リサーチセンター 調査研究費	日本大学医学部との共同	
13	環境放射能水準調査	S62～	国	(H25～) 原子力規制庁委託 (～H24) 文部科学省委託	理 化 学 班
14	産業廃棄物処分場浸出水の生物処理技術に 関する研究	H30～R3	—	秋田県立大学との共同	
15	水環境中の市販医薬品を分子指標とした季節性 インフルエンザの早期流行予測技術の開発	R1～R2	—	秋田県立大学との共同	
16	化学物質環境実態調査	H1～	国	環境省委託	環 境 保 全 班
17	田沢湖の水質変化機構についての調査研究	R1～R3	国	(センター独自)	
18	八郎湖の富栄養化対策のための調査研究	R2	—	(センター独自)	

◆ 令和2年度当初予算（健康環境センター費）

歳出予算額	80,925千円
（内訳） 管理運営費	73,817千円
研究・活動費	716千円
施設・設備整備費	6,392千円

◆ 庁舎の概要

所在地： 秋田市千秋久保田町6番6号

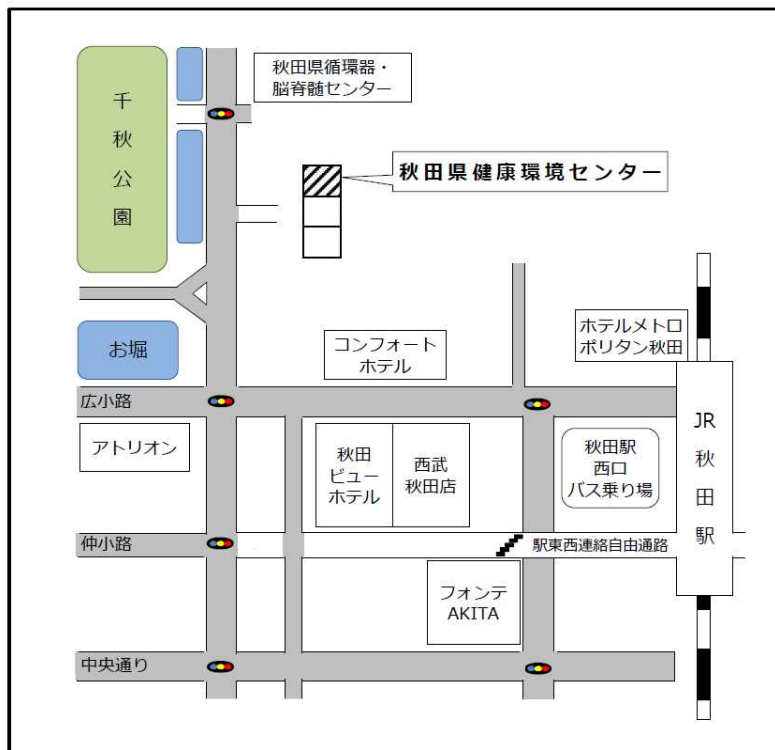
建 物： 鉄筋コンクリート造5階建

（延床面積 4,553.52㎡ 建床面積 867.75㎡）

◆ アクセス

○ 秋田駅より徒歩約10分

○ 秋田空港から秋田駅西口までリムジンバスで約35分



◆ ホームページ

「秋田県健康環境センター」(<http://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/rcphe>)

【感染症情報】 → 保健衛生関係業務 → 秋田県感染症情報センター (<http://idsc.pref.akita.jp/kss/>)

【大気汚染情報】 → 環境保全部の業務 → 大気汚染常時監視

(<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/47013>)

【放射能情報】 → 秋田県の環境放射能の状況 (<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/13438>)

秋田県健康環境センター

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6番6号

TEL：018-832-5005 FAX：018-832-5938

E-mail：b10266@pref.akita.lg.jp